

カーボンリサイクル・次世代火力発電の技術開発事業

資源エネルギー庁資源・燃料部

燃料環境適合利用推進課

令和6年度概算要求額 166億円（176億円）

事業の内容

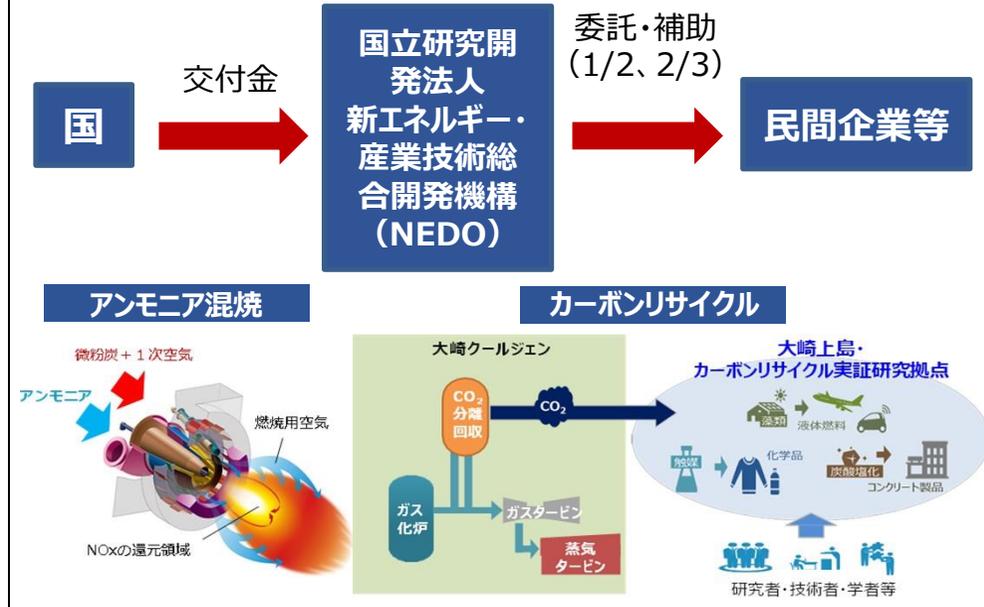
事業目的

第6次エネルギー基本計画において、「2050年カーボンニュートラル実現に向けては、火力発電から大気に排出されるCO2排出を実質ゼロにしていくという、火力政策の野心的かつ抜本的な転換を進めることが必要である」、「CCUS/カーボンリサイクルについては、2030年に向けて、技術的課題の克服・低コスト化を図ることが必要不可欠であり、これらの取組を通じて、火力発電由来のCO2排出量を着実に削減する」とされており、その対応のための技術等の早期確立を目的とする。

事業概要

S+3Eを大前提に、2050年カーボンニュートラル実現に向け、カーボンリサイクル技術ロードマップに基づき、CO2削減が達成されること、既存の商品と価格競争力を持てるよう低コスト化することを目標に、火力発電所等から発生するCO2の分離・回収技術や有効利用技術といったカーボンリサイクルに係る技術開発を実施する。また、石炭とバイオマスの混合燃料によるガス化などの次世代の高効率石炭火力の更なる高効率化や燃焼時にCO2を排出しないアンモニアの混焼等に係る技術開発を実施する。

事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）



成果目標

令和5年度から令和8年度までの事業であり、短期的には火力発電の次世代化・高効率化の技術開発を推進しつつ、脱炭素型の火力発電の置き換えに向けてCO2分離・回収やカーボンリサイクルに関する技術開発に取り組むことで、最終的には2050年カーボンニュートラル実現を目指す。